

生活科学習指導案

日 時 平成27年10月1日(木)

1、単元名 『めざせ 野さい名人』

2、単元について

- ・本単元に関わって、学習指導要領には以下のように記載されている。

■内容

(7) 動物を飼ったり植物を育てたりして、それらの育つ場所、変化や成長の様子に関心を持ち、また、それらは生命をもっていることや成長していることを気づき、生きものへの親しみを持ち、大切にすることができるようにする。

1年生では草花を育てたので、2年生では収穫できる野菜の栽培を行う。

野菜の栽培は、草花栽培に比べ難しく、本や資料を用意したり、野菜作りに詳しい人に栽培の方法を聞いたりして、子ども自身が自分なりに解決できたという達成感を味わえるようにしたい。

そして、その達成感をより充実させるためにも、1年生の時に引き続き、一人一鉢の栽培活動を行うとともに、児童が育てたいと考えた野菜をより多く栽培したい。

さらに、野菜が実ったときの大きな喜びを味わい、野菜を食べるときには、今までの成長や自分がやった世話の経験を振り返り、自分の成長とともに助けてもらった人への感謝の気持ちも抱くことが期待したい。

野菜が草花と同じように成長していくのを間近に見るのは、驚きであろう。そのためには、様々な野菜の成長にふれさせたい。また、単元の最後のクイズでは、野菜の形の美しさや旬にもふれ、野菜に親しみをもつとともに、食育に関連させた授業の展開をしたい。

3、児童の実態

《省略》

4、部会の研究テーマと本単元・本時案との関わり

○生活科部会研究テーマ

子どもの気付きを高め、豊かに感性を広げる活動をめざして
～ものの見方，考え方を育む活動を通して～

・主体的な活動を生み出す工夫

「1年生に野さいとくだもののクイズをする。」という目標を設定することで、学習意欲の向上を図ることができるだろう。また、どのようにすれば1年生にわかりやすいクイズになるか、どのようにすれば一年生が興味を持ってクイズに取り組むことができるか、といったことを考える中で、今までの飼育経験を生かして、よりよいクイズを作ろうという思いを高めることができるだろう。

・気づきの質を高める交流の工夫

クイズ作りの活動を行う中で友達との交流や、教師による価値付けなどの場面を設けることで、気づきの質が高めることができるだろう。またそれらの活動の中で、自分自身の良さや可能性に気づき感性を広げることができるだろう。

5、単元の目標

- ①野菜の苗を植えたり種をまいたりして育て、世話を続ける中で、成長の様子に関心を持ち、収穫を楽しもうとする。
- ②野菜を育てる活動をとおして、野菜も自分たちと同じように生命をもっていることを感じ取るとともに、それらを大切にすることができるようにする。

6、評価規準

生活への関心・意欲・態度	活動や体験についての思考・表現	身近な環境や自分についての気付き
<ul style="list-style-type: none">・身近な植物に関心をもって関わろうとしている。・植物の育つ場所，変化や成長の様子について関心をもって、世話をしようとしている。・育てている植物に心を寄せ，繰り返し関わろうとしている。・生き物をに親しみをもち，生き物を大切にしようとしている。	<ul style="list-style-type: none">・育てていたい植物を選んだり決めたりしている。・植物の育つ場所，変化や成長について考え，世話の仕方を工夫している。・植物の立場に立って考え，世話の仕方を工夫している。・育ててきた植物との関わりを振り返り，自分なりの方法で表している。	<ul style="list-style-type: none">・植物の特徴，育つ場所，変化や成長の様子について気付いている。・育てている植物に合った世話の仕方があることに気付いている。・生き物は生命をもっていることや成長していることに気付いている。・生き物への親しみが増し，上手に世話ができるようになったことに気付いている。

7、単元計画

小単元名	時	主な学習活動	教師の支援	評価規準		
				関	思・表	気
めざせ野さい名人（とびら）	1	子どもが芋ほりをしている「とびら」の写真をきっかけに、育ててみたい野菜について話し合い、栽培への意欲を高めるようにする。	野菜にはいろいろな種類があり、育てる時期や育てやすい種類があることを知らせる。	関	思・表	気
				○		
なえをうえよう	2	育てる苗や種を観察し、気づいたことを発表しあう。また、そのことを絵や文で表す。	諸感覚を使って観察するよう助言する。また、苗の種の多様さにも着目させる。			○
なえをうえよう	3	教科書をヒントに苗を植え付けや種まきのやり方を知り、用意した容器や花壇に苗や種をまく。	教科書をよく見るように指導する。		○	
なえをうえよう。	4	苗の植え付けや種まきをした気持ちを発表し、これからの世話の仕方を知る。	種まきの様子だけでなく、野菜に対する思いや期待も表現できるように声をかける。		○	
なえをうえよう	5	成長に合わせた世話の仕方を知り、大切に世話をしたり、成長の変化をカードなどに記録したりする。	花を育てた経験を生かして、成長に合わせた世話の仕方を考えさせる。専門的な知識も必要なので、ヒントになる物を用意しておく。			○
	6					
しゅうかくしよう	7	野菜・果物の収穫を通して実ったことを喜び、絵や文で表す。	諸感覚を使って観察するとともに、収穫の喜びが味わえるように声かけをする。		○	○
	8					
しゅうかくしよう (野さいとくだもののクイズ)	9	今まで記録したカードを見て野菜や果物が成長した様子を振り返り、野菜と果物のクイズの作成に取り組む。	成長が振り返れるように、これまで記録したカードをもとにクイズを作る。		○	
	10					
	11					
しゅうかくしよう (野さいとくだもののクイズ)	12	野菜と果物のクイズを行う。	子どもの生活と野菜や果物を結び付けるように助言する。 1年中出回る野菜や果物があるわけを簡単に説明する。	○		

しゅうかく しょう	13	収穫した野菜や果物を使って、調理する方法を考える。	収穫した喜びが感じられるようにする。誰でもできる簡単な料理を選ぶようにする。保護者の協力を得る方法もある。		○	
しゅうかく しょう	14 15 16	収穫した野菜や果物を使って、調理する。	衛生面や安全面に注意を払いながら、料理するように指導する。また、お世話になった人などを招待することも考えられる。	○	○	

8. 本時案

(1) 本時の目標

これまでに育ててきた野菜や果物との関わりを振り返り、野菜と果物のクイズを自分なりに作ることができる。(活動や体験についての思考・表現)

(2) 本時の展開

	○児童の主な活動	□教師の働きかけ	※支援 ◇評価
見 通 す 3 分	○前時の振り返りと本時の活動を 確認する。	□前時までの取り組みを子ども達の取り組みを紹介する中で振り返ることができるようにする。	※“野さいとくだもののクイズ”に向けての意欲をもたせる。
追 究 す る 3 2 分	ビックリしたこと、しらせたいことを見つけよう。		
	○ビックリしたこと、しらせたいことを見つける。 ○友達ビックリしたこと、しらせたいことについて話し合う。 ・ミニトマトのみは、さいしょはみどり色 ・はちのうえた野さいをそだてる時は、水のやりすぎにちゅうい。 ・トマトやインゲンをそだてる時は、しちゅうがいる。	□なぜそう思うのか理由をしっかりと話させる。 □思いをどう大切にしたいのかを明確にする。 □話し合いの活動を、自分のクイズ作りに生かすことができるように働きかける。	

	○ビックリしたこと、つたえたいことをさがす。		※困っている子がいたら、ほかの友だちの考えを紹介したりするなど、ヒントをあたえる。
振り返る 1 0 分	○学習のふりかえりをする。 ○次時以降の見通しをもつ。	□積極的に話し合いに参加できたか、次の時間の見通しがもてたかなどの視点をもたせる □必要なものがあるか確認をする。	◇学習を振り返る中で、クイズ作りで大切なことを考えることができる。 (思考・表現)ワークシート・発表

(3) 本時の評価

これまでに育ててきた野菜や果物との関わりを振り返り、野菜と果物のクイズを自分なりに作ることができたか。(活動や体験についての思考・表現)

(4) 板書計画

野さいとくだもののクイズをつくろう

めあて ビックリしたこと、しらせたいことを見つけよう。

- ・ミニトマトのみは、さいしょはみどり色
- ・はちにうえた野さいをそだてる時は、水のやりすぎにちゅうい。
- ・トマトやインゲンをそだてる時は、しちゅうがいる。

クイズを作る時に、気をつけること

- ・おせわの時、気をつけることがよくわかるクイズができるとよい。
- ・一年生にとって、べんきょうになるクイズができるとよい。